

高校福祉科・大学福祉学部、二世世代ディスカッション交流会報告書

日本社会事業大学 学内学会学生長

代表執筆者 学部2年 日下公佑

共同執筆者 学部4年 平塚沙知子

企画担当 学部2年 北条美央

企画担当 学部2年 染倉有希

はじめに

福祉教育は、さまざまな分野で行われている。大学の福祉学部をはじめとして、高校福祉科や中学生からの福祉の理解、そして社会問題を学ぶという事が行われている。それぞれの学び場には、世代が違う人たちがおり、また教育目標も違う。価値観もソーシャルワーカーの倫理綱領だけが福祉を学ぶ方々の価値観ではないだろう。福祉学ぶ世代ごとの価値観の交流をし、世代ごとのギャップや経験の差を話し合う。福祉教育において重要なのは、価値観の交流だと考え今回の企画し、実施した。

1、交流目的

上記にも述べた通り、福祉教育は様々な世代で行われている。つまり、中学校・高校・大学・社会人と世代ごとに福祉実践を行っている人がいるという事である。世代ごとだからわかる問題点に取り組んでいるだろう、この4世代が交流しながら連携していくことで刺激しあうことができるのではないだろうか。

今回は、日本社会事業大学社会福祉学会にて、福祉系高校・福祉系大学2世代がディスカッション形式で価値観の交流、福祉を学ぶ2世代の価値観の違い、また2世代にとっても新たな価値観の発見をする機会になる。さらに、福祉教育で必要なのは交流連携なのではないだろうかということを考えるきっかけになるのが目的である。

2、交流会で行った事

アイスブレイク（バースデイライン）、大学の発表（日本社会事業大学の紹介）といった、ウォーミングアップを行った後、グループディスカッション（人生において大切な順番）（よりよい援助者とは）（将来の福祉）について話し合った。はじめの「人生において大切な順番」とは、プリント（資料参照1）を用いて世代ごとに分けてディスカッションを行ったものである。次の「よりよい支援者とは」は、どのような人がよりよい支援者なのかを話しあい一人の支援者を作り上げてもらうということである。「将来の福祉とは」は、理想の現場等について話し合ってもらった。

3、交流会の集客

交流会は、クラーク記念国際高等学校保育福祉コース・大泉桜高校福祉学科を招待した。どちらの高校も従来の介護福祉士を習得するための福祉系高等学校ではなく、福祉を全盤的に学ぶコースである。2校を選んだ理由として、幅広い福祉の分野を学んでいるということ。大泉桜高校は、日本社会事業大学に以前より見学等の交流がある。またクラーク記念国際高等学校の方は、代表執筆者の出身校であり、招待した。大学生は、本学生徒を公募した。結果として交流会当日は、大学生12人、高校生12人、社会人1人、福祉教員1人を招集することができた。

4、人生において大切な順番について

(1) 方法

年代別の価値観の傾向を知るため、大学生、高校生に分かれて行った。こちらで用意した、自分の中で大切だと思うこと（参考文献価値観プリント）を配布した。

最初はひとりで順位付けしてもらい、自信の価値観について知ってもらうことをした。その後、

グループで再度話し合いをしてもらい、グループでの順位付けを行い、年代別の傾向を考えることとした。また、各グループでも、事前に用意した

ものの他に、大切だと思う事柄を追加項目として考えてもらった。

(2) 結果

大学生グループ		
順位	グループ 1	グループ 2
1 位	誠実	愛情
2 位	健康	誠実
3 位	お金・愛情	お金
4 位	(空白)	(空白・追加参照)
5 位	権力	健康
6 位	名誉	名誉
7 位	学歴	権力
8 位		学歴
追加	権限、関係性、プライバシー、友情	家族、生きがい、他者・他人・コミュニケーション力、自分らしさ、頭の良さ、人間関係、癒し

表 1

高校生グループ			
順位	グループ 1	グループ 2	グループ 3
1 位	健康	健康	健康
2 位	愛情	愛情	愛情
3 位	お金	誠実	お金
4 位	誠実	お金	権力
5 位	学歴	権力	学歴
6 位	名誉	名誉	誠実
7 位	権力	学歴	名誉
追加	人脈、友情、治安	人望、人脈、向上心、顔	(空白)

表 2

(3) 傾向・考察

「大学生（本学学生）の傾向」

学歴が最下位という結果になった。おそらく、大学生という立場から、これ以上の学歴には興味がないということだった。権力、名誉ともに 5 位以下という結果になった。2 グループともに、誠実が 1 位・2 位という結果、お金は 3 位という高評価であった。

「高校生の傾向」

健康が 1 位、愛情が 2 位を独占する高評価であった。3 位・4 位が誠実、お金が入り、5 位、6 位、7 位には学力、誠実、権力、名誉が入る。その他には、人脈、向上心、友情といったものが入った。大学生とは異なり、順位に空白等は見られなかった。

グループ内での話し合いだったため、個人の価値観の傾向については言及しない。

小規模ながら、以上の結果から、高校生と大学生では、価値観が少し異なるということがわかっ

た。とくに、高校生は、多くの人が健康を重視していたのに対して、大学生は誠実などが重視され、健康は二の次という結果になった。高校生の意見では「健康でなければ何も出来ない」、「今後のことを考えると心身の健康は大切」ということがあがった。一方大学生に関しては、本学の学生の傾向でもあるが、「誠実でなければ福祉の仕事はできない」などが上がった。おそらく、相談職として大切なものとされるところに影響されているのではないかと考えられる。

5、理想の支援者像

(1) 方法

世代をバランスよく配分し、グループを作り話し合ってもらった。

ふせんを配布し、個人で理想の支援者、将来なりたい自分に必要なものについて考えてもらい、そのキーワードとなるものを記入してもらった。その後、グループ内でKJ法による分類を行った。

てもらった。なぜそのことが必要なのかについて、いくつかのエピソード等を踏まえて各人とも意見交換をしていた。

(2) 結果

KJ法で出た意見をキーワードごとに再度点数化し、どのキーワードに多くの意見が集まったかを表にした。

必要・大切なこと	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4	合計
思いやり		3	1	3	7
知識	1	3	3		7
理解	1		3	2	6
笑顔	1		1	3	5
優しさ	1	1	1	2	5
相手を尊重できる			2	2	4
技術		4			4
コミュニケーション	1		1	2	4
親身	1		2	1	4
さまざまな価値観を持っている		1		2	3
ホスピタリティ	2	1			3
お金		2			2
考える力			2		2
人脈		1	1		2
信頼関係			1	1	2
体力・忍耐力		2			2
批判的でない	1	1			2
平等	1		1		2
明るい人			1		1

表3

その他 (1 ポイントのもの)

行動力がある、交流、心を開く、支援者としての自分を持っている人
親切、誠実、交流できる、他社の意見が聞けること、秘密を守れる、モニタリング、干渉しない等。

(3) 傾向・考察

多く出たのが、相手に対しての「思いやり」と支援者として必要な「知識」が7ポイントと高かった。思いやりがなくては、支援ができないという

ことと、福祉学は幅広く知識がなければ援助できないという共通の認識があった。

高校生からは笑顔とコミュニケーション・ホスピタリティが多く出た。とりわけこの笑顔というのは、見た目の表情の話であり、援助技術を学問的に捉えている大学生には、思いつかない意見だと感じた。援助関係とは、あくまで対等であるが、ホスピタリティというのは、対等の関係ではなくもてなす関係である。しかし、高校生らしい意見だと感じた。ほかの意見に関しては、福祉を学ぶ

6、将来の福祉(理想の現場)

(1) 方法

自由に話し合っただけで自らの思う理想の現場について意見を出し合った。

(2) 結果

給料が高い・カウンセラーがいる・職員の人員が十分にいる。他職種連携・普通科高校との連携で福祉認知

地域とのつながり・自己実現ができる

(3) 傾向・考察

一番話し合っていたのは、給料のことであった。社会福祉士の給料は、380万から420万程度とされており、給与がなかなか上がらないのが現状である。また、ホームヘルパーや介護福祉士の低賃金も深刻な問題になっている。こうしたことを勉強している福祉系高校生・大学生の将来福祉に進むうえで一番の不安要素は、給料であるとい

うことが話し合いから見受けられた。また、福祉系職業の深刻な人員不足のなかで、一人一人の負担が増え利用者には十分なサービスが行き届いていないという現状も勉強している中、人員のことも取り上げられた。普通科高校との連携で福祉認知という声も挙げられた。自らが将来福祉従事者になったのち、講師として普通科の高校を訪ねて差別の問題や福祉の認知社会問題について話すということだ。福祉を勉強している高校生・大学生にとって、これらの結果は当然のように思えた。しかし、これらの理想を実現するのは、難しいという認識も学生の中であるが、あきらめないということも学生の話し合いの中で感じられた。

7、アンケート結果

最後に、この企画の趣旨でもある新たな価値観の発見が出来たかどうか等のアンケートを行った。

アンケート結果

問1	アイスブレイク	楽しかった	ふつう	あまり楽しくなかった	全然楽しくなかった	無回答	合計
	高校生	9	3	0	0	0	12
	大学生	7	4	0	0	1	12
	合計	16	7	0	0	1	24
問2	ディスカッション 難易度	すごく難しかった	むずかしかった	ふつう	かんたん	無回答	合計
	高校生	2	8	1	0	1	12
	大学生	2	8	1	0	1	12
	合計	4	16	2	0	2	24
問3	ディスカッション 楽しさ	すごく楽しかった	楽しかった	ふつう	あまり楽しくなかった	無回答	合計
	高校生	5	4	2	0	1	12
	大学生	2	8	1	0	1	12
	合計	7	12	3	0	2	24
問4	新たな価値観を 発見できた	はい	いいえ	どちらでもない			合計
	高校生	8	1	3			12
	大学生	7	2	3			12
	合計	15	3	6			24

表4

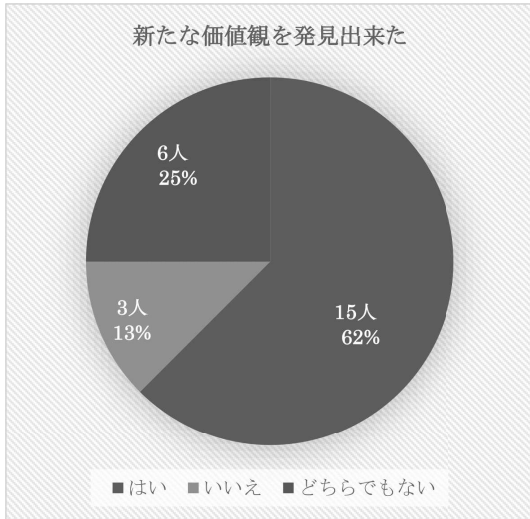


表 5

(2) 傾向・考察

アンケート結果の考察として、問い2のディスカッションの難易度の質問において、すごく難しかった、むずかしかったが高校生大学生含めて20人いたのに対して、すごく楽しかった、楽しかったと回答するのが19人もいたことである。高校生・大学生には、価値観を問うディスカッションだからこそ、難しかったと感じる学生が多かったと考察でき、また考える事が多く難しかったが、楽しかった交流会と考察できる。実際にこんなことがアンケートに書かれている。「話がはずむ要素があっていいディスカッションだったと思う。」(大学生)「高校生がいい意見をいっており、とても驚いた、また、素直な意見が新鮮でどきどきさせられた」(大学生)「自らとは違う方向からの意見が興味深かった」(高校生)「いろんな意見が聞けて、自分が考えないような事がわかった」(高校生)など、それぞれの世代が刺激をしあえた結果が現れた。また、データとして福祉従事者とのせられなかったが、福祉従事者を経験した大学生の方もおられた。また、今回のメインの目的である新たな価値観の発見は、円グラフ化して%を出してみると62%の方が新しい価値観を発見できたと結果が出た。また、それらを有意義に考えていることもアンケートのコメント欄で見

受けられた。交流連携は、新たな価値観や考え方を発見し、有意義に考えられることから福祉教育に取り入れるべき機会だということがわかる。しかし、どちらでもないと感じた人が4人に一人の25%という結果が出た。これは、ディスカッション自体で有意義な意見交換が出来なかったということとディスカッションの内容が具体性にかけていたという事が考察できる。以下アンケートに書かれていたことである。「新たな支援者のイメージを膨らませることが出来た」(大学生)「理想を語るだけではなくそのままよりよい現場を作り出すという意見にそういう意見もあると思った。」(大学生)「社会福祉に触れることが出来た。様々な意見や考えに触れることが出来て本当に良かったです。良い体験ができました」(高校生)「支援する際に必要な心が新たに発見できた」

アンケートは、とても反応がよく、来年も行ってほしいなどの前向きな意見も書かれていた。

8、まとめ

今回、このように高校生、大学生、一般の方という幅広い年代との交流を通して、福祉について考える、価値観を交流することが出来たと考える。大学生は、高校の時の自分を思い出しながら、自分の変化に気づき、高校生は、今後大学進学を目指している人が多くいたので、やる気につながったのではないかと思う。

上記にも述べたとおり、交流連携は新たな価値観を発見することが出来、またそれらはとても有意義だということがわかった。ぜひ、福祉教育の必修科目として取り入れるべきである。そうすることで、互いに刺激しあい福祉教育として、将来を展望し、振り返る良い授業になるのではないだろうか。

9、参考資料

(1) 価値観プリント

社会福祉学会高校企画

価値観プリント

あなたの人生において大切な価値観

あなたの中で優先順位を決めるとしたら、以下の7つの言葉と追加の言葉は、何位になりますか？ その言葉をどう捉えるか、順位をつける基準は、各自で構いません。

権力	健康	学歴	愛情	名誉	お金	誠実	任意追加 ()

グループになってお互いの価値観について共有してみましょう！

名前	権力	健康	学歴	愛情	名誉	お金	誠実	任意追加 ()

話し合ったグループの価値観

権力	健康	学歴	愛情	名誉	お金	誠実	任意追加 ()

